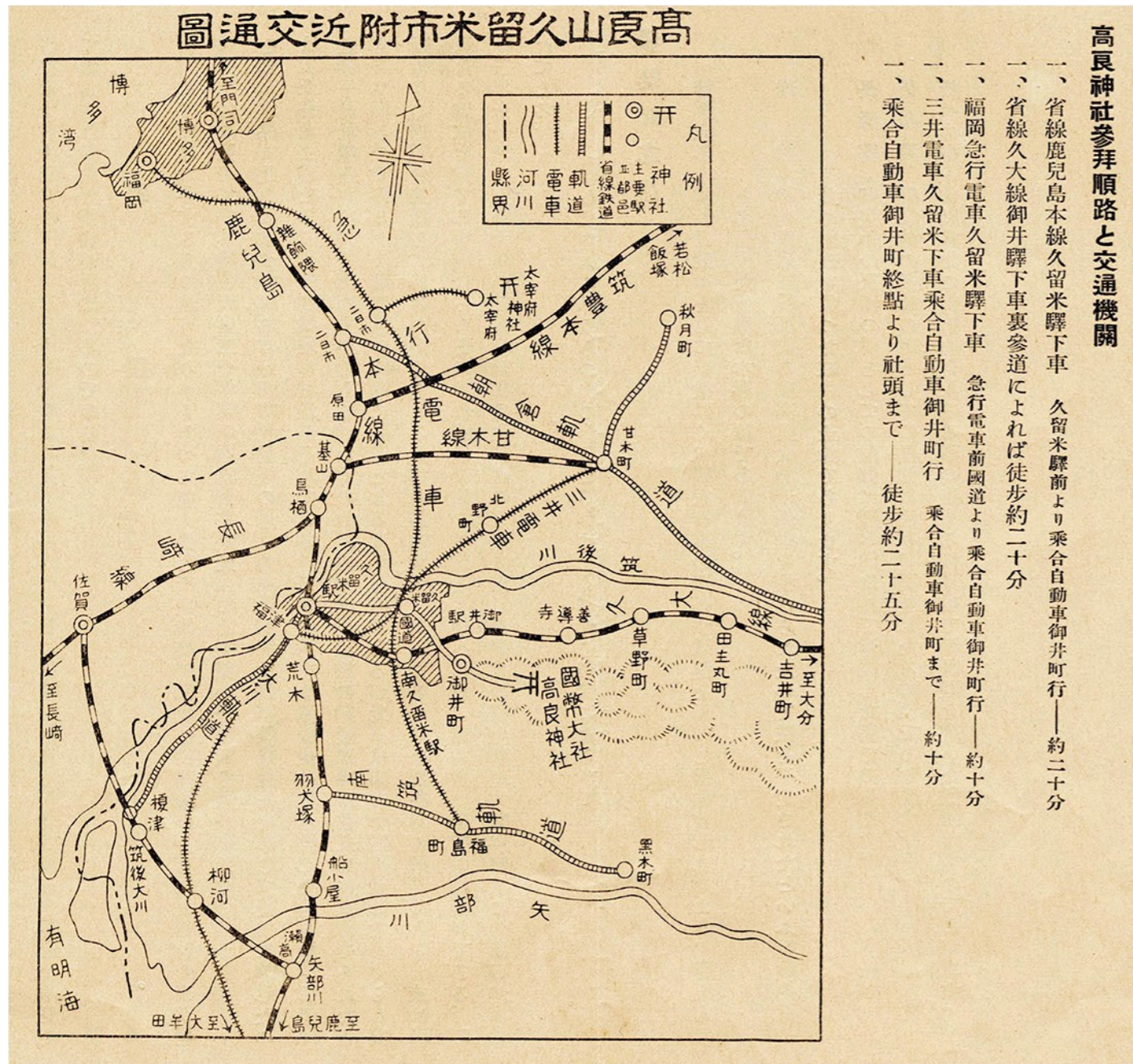


高良遊山



高良神社参拜順路と交通機関

- 一、省線鹿兒島本線久留米驛下車 久留米驛前より乗合自動車御井町行——約二十分
- 一、省線久大線御井驛下車裏参道によれば徒歩約二十分
- 一、福岡急行電車久留米驛下車 急行電車前國道より乗合自動車御井町行——約十分
- 一、三井電車久留米下車乗合自動車御井町行 乗合自動車御井町まで——約十分
- 一、乗合自動車御井町終點より社頭まで——徒歩約二十五分

▲「国幣大社高良神社由緒概要」(昭和12年)より

1. 「観光」のはじまり

観光は本来、国の政治や文化などを観察するという意味や、国の文物を外部に示すといった意味で使用されていました。観光という言葉が、現在の意味で一般的に使用されるのは、大正時代に入ってからです。それ以前は、「漫遊」や「物見遊山」という言葉が当てられていました。

明治時代後半になり、わが国が近代社会として成熟していくとともに、交通網など社会基盤が充実していく中で、経済振興のための取り組みのひとつ

として、国内外からの旅客の誘致が活発になります。久留米市は、日本一小さな市として明治22年(1889)に誕生しました。厳しい財政状況の中で、軍の誘致などによって経済発展に取り組んできた本市でも、明治の終わり頃には、軍関係施設をはじめとした市内の名所・旧跡をめぐる観光客が増え、それらを観光スポットとして紹介した観光地図や絵葉書などがつくられます。

2. 近代久留米の観光

久留米は古代以来、交通の要衝として発展してきました。近代になると、軍隊の設置、地場産業の成長とともに、交通網が整備・拡大されていきます。

明治22年に九州鉄道(のちJR)が博多~久留米間に開通すると、次第に筑後軌道や九州鐵道(のち西日本鐵道)も、久留米を発着点に運行を始めました。昭和3年(1928)には久大線の久留米~筑後吉井間が開通します。また、昭和7年(1932)2月には久留米自動車会社が省線(現・JR)久留米駅~佐賀駅でバスの運行を始めました。そして、同年10月には、久留米市観光協会が創設、省線久留米駅前に観光案内所が設置されます。



▲左「時局と久留米市」・右「久留米市観光案内所」(『久留米観光読本』、昭和13年)より

久留米市観光協会は、昭和13年(1938)に「少女ガイドが観光客を案内してゐる口演集の一部」をまとめた『久留米市観光読本』を刊行しました。本文冒頭では、久留米市について、軍都・産業都市であることを誇り、高良山と筑後川を擁する「地の利」を説いています。この本は好評を得て、同16年(1941)には紹介する名所を増やして第三版が発行されました。

こうしたガイドブックとともに、観光記念として、久留米市の名所の絵葉書も発行されます。絵柄には主に、高良神社、梅林寺、水天宮、篠山神社などの神社仏閣や、久留米城跡、高山彦九郎墓所といった史跡が選ばれました。



▲『久留米観光読本』初版(右)・第3版(左)

3. 観光名所・高良山

高良山は、古代以来、宗教や政治の中心として、また軍事上の要害として、歴史的に重要な役割を果たしてきました。特に近代以降、参拝に観光を兼ねて、高良山を訪れる人々が増えていきました。大正時代には、久留米俘虜収容所のドイツ兵捕虜たちも、遠足として登山をしています(No.7-3 絵葉書)。

高良山に鎮座する高良神社(現・高良大社)でも、明治~昭和戦前期にかけて、案内の銅版画やしおり、絵葉書を発行しています。昭和12年に発行された『国幣大社高良神社由緒略記』には、祭神、神事、祭事、宝物などに続き、古代の神籠石、中世の山城、近世の高良山十景などの名所、そして高良神社までの順路・交通機関を地図とともに紹介しています。



▲左・『国幣大社高良神社由緒概要』・右「国幣大社高良神社由緒略記」(左右とも昭和12年)

昭和戦後期以降、県道750号が整備され、山頂付近まで自動車でのアクセスも可能になりましたが、麓から徒歩で高良山を訪れる時、私たちは近代の人々が歩いた参道や眺めた名所を、当時と同じように楽しむことができます。